



1月18日(木) 第20号
第3071回 例会

本日の
プログラム

年男の弁

会長年頭挨拶 和田一仁 会長

札幌東RCの皆さん、またクラブ運営を支えてくださる札幌パークホテルの皆さん、渡部先生、事務局の塩谷さん、新年明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひいたします。

まず、元日に石川県の能登半島を中心に発生した能登半島地震により亡くなられた方々、そして親族の方々に心からお悔やみを申し上げるとともに、被災された方々にお見舞いを申し上げます。被災地の石川県と富山県にまたがる第2610地区には64のクラブが所属しています。珠洲市にも輪島市にも能登にもクラブがあり約300人余りのロータリアンが所属されているようです。同じロータリアンとして皆さんとご家族のご無事と一刻も早く職業人として再起活躍されることを祈念します。また、2日には新千歳発のJAL516便が羽田着陸の際、震災支援で新潟に向かう海上保安庁の航空機と衝突し、JALの乗客乗員379人は奇跡的に全員脱出しましたが、海上保安庁機の5人の方々が殉職されました。とても痛ましい事故に心が痛みます。亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、事故で怪我をされた方々、精神的にダメージを受けた方々の回復を願います。

こうして大きな災害から始まった新年をお迎えになりましたが、昨年もまた混迷時代といわれるような厳しい多重変化の多い年でした。日本の美しい四季の原風景が崩れ、四季ではなく二季に近く感じます。春・秋は短く、夏は暑くて史上最高温度。本州では11月になっても夏日で、向日葵とコスモスが同時に咲いているのが見られるという珍現象でした。この異変は日本だけでなく、世界各地で熱波による山火事が発生しました。また、激しい降雨で大水害になり、被害も続出しました。エルニーニョ現象と言われますがそれだけで片づけられるのか大いに疑問です。ロシア・ウクライナ戦争も2年近くになり、また、イスラエルとハマスの間で戦争が勃発しました。戦争の被害者は当事国の国民であり、世界の人々は出口の見えない戦争に、不安と焦燥感を受け続けることになっています。

このような状況をロータリークラブの創立者ポール・ハリスはどう考えるのでしょうか？今は便利なものでネットでググると1940年に「私たちはこう問います。最も優れた人間の才能を戦争のための科学に捧げなければならない



のに、戦争を回避するための科学には捧げないのか、と」

また、1945年には「戦争にいたる道は、よく舗装されたハイウェイです。平和への道は、未だに茨の道です。しかし、国連は不可能に挑んでいるのでしょうか？そうではないと私は断言します」と語っています。一向に変わらないこの現実を私たちは現実を直視せず言葉だけで終わっていいものでしょうか？

さて、私の年度も折り返し地点となりました。夏の納涼家族会、年末家族会の大きなイベントを終え、例年であれば残り半年を淡々と進めるところ、3月の65周年記念、IMと外部に対する大きな行事が待っています。皆様の、一層のご協力とご理解をお願いする次第です。今年度は、新型ウイルスによる数年にわたる規制が緩和されようやく暮らしにも平穏さが戻り、人流も回復し経済も回り始めました。それと一緒に、一時は対米ドル150円を超える円安、人手不足による人件費の上昇、コストパッケージ型の悪性インフレが続きました。未だ景気が回復していないにも関わらず、政財界では増税論議や社会保険料のステルス値

■本日のロータリーソング

我等の生業

2023-2024年度 国際ロータリーのテーマ

「世界に希望を生み出そう」

国際ロータリー会長：ゴードン R. マッキナリー



CREATE HOPE
in the WORLD

上げ、お一人お一人が優れた職業人の皆さんもその組織や従業員の方々の待遇や待遇に悩んだことではないでしょうか？

そんな中で、会費を上げさせていただきました。今の例会数を維持しながら、札幌パークホテルという皇族や海外要人も宿泊されるこのホテルで、例会を維持し皆さんに喜んでいただける食事やホテルの対応を希望するには会費の値上げに踏み切らざるを得ませんでした。一方、例会数を減らして値上げを抑制せよとのご意見もあります。ロータリーの真髓は例会出席にありと私は考えます。例会数を減らしていくと奉仕の理想を学ぶ場が減ってしまい、私のような能力のない者にはただの異業種交流会となってしまいます。会員の成長の場が損なわれ、それはRCの否定にも繋がると考えます。例会出席により会員同士が親睦を深めその言葉や立ち居振る舞いや努力、歴史に感化され、心が洗われて自分自身の心を磨き、自分の職場で奉仕の理想を実践しました翌週に例会出席をして反省し振り返る。その機会が失われていくことは自分自身を磨く機会が失われるのと同じです。私の年度では想像もできないことです。また会費値上げに関して、長年の潤沢な繰越金の利用も考えましたが、いざというときのお金でありまた淨財であるとのご意見もあり、皆様の受益者負担的な値上げをお願いした次第です。ご理解をいただき本当にありがとうございます。

ただ、このいざとか淨財と言う言葉が一人歩きすることにとても危機感を覚えます。その言葉には会員の共通理解になる具体的な要件がないのです。いざを例にとれば今回能登半島での震災は同じロータリアンの仲間が苦しんでいるのだから全ての繰越金を支援に回すべきだと言う意見が出たら何と答えましょう？淨財であればそれを積み重ねた物故会員の意見をお聞きしなければ1円たりとも使うこともできますまい。私は残り半年の間にわが札幌東RCの将来を策定する未来戦略委員会でその要件を是非とも審議して言葉の定義や意義を明らかにして欲しいと考えます。

私見ですが、日本という国はいつの間にか、モノやサービスの価値を正しく見るのではなく、何でもかんでもコストパフォーマンスが善であるというような風潮になっているような気がします。無駄や余計なものをくつづけて価格を釣り上げるようなことは論外として、品質やサービスの良し悪しや長年培われてきたブランドを無視してなんでもかんでも安く安くというのはいかがなものか？一流のレストランで相応のサービスを受けていて、ファストフードの料金しか考えないのでしょうか？ベンツやレクサスの性能や品質を要求して、軽四輪の予算しか組まないのでしょうか？優れたサービスや品質、信頼性を提供している人間を蔑ろにした風潮に疑問を持ちます。私は伝統や格式や高いサービスそして高い信頼性や品質にはそれ相応の対価があつて然るべしと思います。今までこのホテルでの安価な価格設定は長年私たちの先輩方がホテルを愛顧し続けてきたからです。でも、ロータリーにおいて代替わりして事務的なやり取りでは長続きすることではなくいつの間にかサービスの低下をきたします。さらに、安く安くを続けているとその皺寄せは働いてい

るホテルの従業員さんに及びます。奉仕を通じて人を幸せにしようとする私たちがそんな行動をとっていいのでしょうか？ロータリアンという社会から認められそれ相応の評価がある私たちが自分たちのために他を犠牲にして良いものでしょうか？ロータリアンは自分の職業を通じて社会に貢献し、更にロータリーの学びを通じて世のため人のために成長拡大して、そこで得られる利益を従業員や社会に還元するのが理想であると思います。そのために例会や様々な活動を通じて自分自身を成長させてくれるのがRCだと考えますがいかがでしょうか？随分青臭い書生じみた話で申し訳ありません。わずか半年ですが会長職をやらせていただきながら、このように感じた次第です。どうか、皆様からのご意見やご指導を頂ければ後の半年乗り越えられます。よろしくお願ひします。

さて、本年は「甲辰(きのえたつ)年」です。十二支の中で「辰」は唯一の架空の生き物で、龍(竜)を意味します。水や海の神として祀られてきた龍は、竜巻や雷などの自然現象を起こす、大自然の躍動を象徴するものであり「龍が現れると、めでたいことが起きる」と伝えられています。辰年は、政治の大きな変化が起こる年です。戦後5回しかない辰年のうち、3回は総選挙が行われました。岸田政権も今年、信が問われます。その他の主なできごとでは、1868年戊辰戦争、1904年日露戦争と大きな戦争が起きました。今はロシア・ウクライナ戦争、そしてイスラエル・ハマス戦争が1日でも早く終結することを願うしかありません。また、1952年血のメーデー(皇居前でデモ隊と警察が衝突し、1500名が死傷)、1964年東京五輪開催・東海道新幹線開業、1988年青函トンネル開通・瀬戸大橋開業、2000年二千円札発行と大きなできごとが多く、まさに動乱の年です。一方、2000年シドニー五輪で高橋尚子さんが女子マラソン史上初の金メダルを獲得し田村亮子さんは女子柔道史上初の金メダルを獲得しました。日本は、過去最高の18個のメダルを獲得しました。2012年京都大学の山中伸弥氏がIPS細胞を発見し後にノーベル生物学・医学賞を受賞しました。

こうして努力した成果が実を結ぶようなできごとが多く起こる年でもあります。努力してきた成果が報われる年でもあります。哲学者であり教育者であった森信三先生の晩年の言葉に「2025年、日本は再び甦る兆しを見せるであろう。2025年になったら、列強は日本の底力を認めざるを得なくなるであろう」

2025年は来年です。森先生がおっしゃるような兆候はまだ見えませんが2025年、日本は底力を發揮して世界から賞賛される国になって欲しいという願いを込めて、日本人に希望を与えてくれる言葉です。でも一方、20年ほど前ですが、ある国の要人がこんな言葉を残しています。「21世紀の半ばには、日本は地球上から消えている」

この言葉に、なんと無礼な、と義憤を覚えますが、最近イーロン・マスク氏もこう発言しています。「出生率が死亡率を上回るような変化がなければ、日本はいずれ消滅する。世界にとって大きな損失だが」

日本をどちらの国にするのか、です。その鍵を握っているのは私達日本人自身です。どうか残り半年、よろしくお願ひいたします。